

■(株)国泰キャピタル

東京都千代田区内神田2-10-12 添川ビル3F
TEL 03-5207-6688 FAX 03-5207-6588
http://www.fx-kyc.com

【中国上海州口房産經紀有限公司】
中国上海市長寿路393号 昆侖商務中心1015-16室
TEL 86-21-6276-2058 FAX 86-21-6266-9958
http://www.chinese-house.net

対談 代表取締役社長 潘 福平

ゲスト 藤波 辰爾
(新日本プロレス副会長)



世界を市場に日中でビジネス展開 将来は中国に日本人村の構想も

藤波 潘社長は国際金融と日中間における不動産のスペシャリストと聞いていますので、本日は様々なことを教わるつもりで参りました。よろしくお願ひ致します。

潘 来日して10年以上になりますが、まだまだ分からないことがたくさんございます。私の方こそ藤波さんからいろんなことを教えてもらえたらと思っています。

藤波 流暢で完璧な日本語ですが、日本へはどのような目的でいらしたのですか。会社を立ち上げるまでの経緯も踏まえてお聞かせ願ひしたいと思います。

潘 中国の大学を卒業し、その後の5年間は中国の大学で会計学について学生に教えていたのですが、やはり経済が高度に発達した国で先進的な経済や金融制度及び経営理念などについて学びたかったものから日本への留学を決意。当時は同僚のほとんどが学びの地を欧米に求める中で、私は欧米にはばかり集中するものどうかと思い敢て日本を選びました。その頃の中国はまだ開放が進んでおらず、若い研究者達は海外で数々のことを勉強して母国で生かした

り、海外に留まってその国と母国を結ぶビジネスを立ち上げたりするなど、夢と野望を持つ者が大勢おりました。

藤波 社長もその中のお一人であったと。

潘 大学院の修士課程では財団から、また博士課程では当時の文部省から奨学金を受けながら研究に励みました。そして卒業後「これからどうしようか」となった時にタイミング良く中国の母校の大学から講師の要請を受けたのですが、せっかく日本で学んだのだからそのまま残ってビジネスマナーなどの習慣も身に付け、日本と中国との交流に役立つ仕事をと決心した次第です。

藤波 不動産と外国為替取引を事業内容に選んだのはどういった理由からですか。

潘 日本に残ることを決意して間もなく中国がWTO(世界貿易機関)に加入し、日本の企業が中国への進出を本格的に考えるようになりました。そんな中で親しい中小企業の社長や在日中国人の経営者から大陸での土地や工場取得の方法、駐在社員のためのオフィスやマンションの買い方などの相談を受けた経験から、そこにビジネスチャン

スを見出したわけです。中国には不動産と金融業界のトップとの交流がありましたので、そのネットワークを生かしながら中国で質の良い不動産を紹介することで2つの国を繋ごうと。そして現在に至るまで不動産に関する仲介やコンサルタントなどを幅広く手掛けてまいりました。

藤波 まず不動産部門からのスタートだったわけですね。中国と日本ではビジネスの環境がまるで違うと聞きますが、両国を知る社長ならではの行き届いた仲介ができたことでしょうか。

潘 中国は人との繋がりを何よりも重んじる国で、それはビジネスの場面においても変わりません。私は日本と中国の情報が入りやすい立場にいたわけで、その分だけ皆様のお役に立つことができたと感じておりますし、もちろんこれからも誠意を持って日中のために尽くしていくつもりです。

藤波 金融を手掛け始めたのは不動産が軌道に乗った後ですね。

潘 はい。日本では1998年に金融ビッグバンの一環で外為法が改正され、個人にも為替の取引市場が開放されたのはご存じかと思いますが、私がもともと国際金融の研究をしていたことを知る友人達がその頃から「今の為替の変動をどう見る」とアドバイスを求めてくるようになりましてね。そこで株式や商品先物などと比べて、個人投資家にとってより身近で馴染みの深い外国為替に大きな将来性があると考え、平成13年に外国為替証拠金取引の部門を新たに設けることにした次第です。当時の業界は電話での取引が主でしたが、タイミングを外すなどデメリットが多過ぎたため、インターネットを駆使して投資家にいち早く正確な情報を伝えるサービスを確立させました。

様々な可能性を秘める中国市場

藤波 いずれの事業も順調のご様子ですね。2008年には北京オリンピックが開催されることもあって、中国は世界から最も注目されている存在だと思います。潘社長はこの時流に先駆け事業を進めてこられたわけですが、ご自身の取り組みが間違っていないかという充実した思いがあるのでは。

仲間が欧米へと競うように留学する中、「決まった国々ばかりに集中しても面白くない」と敢て日本を留学先を選び、1991年に来日した中国・上海出身の潘福平氏。日本では大学院まで進んで国際金融を学び、卒業後は日中の架け橋となるべく様々な事業の展開に精力を注いだ。そして3年前に不動産と外国為替取引を柱とした(株)国泰キャピタルを設立。流暢な日本語で不動産や金融市場の現状を話す潘社長だが、難しい内容を分かりやすく伝える語り口には彼の人間的な底力を見る思いがした。



潘 そうですね。中国の発展は周知の通り非常に目覚ましいものがあります。特に不動産産業は経済発展の牽引力となっており、日本ではかなりの過熱感があると見ている方が多いですが、投資対象としての中国不動産市場には依然大きな成長の潜在力があると思われまます。また為替の信用取引はアメリカで始まりましたが、まだ歴史が浅く日本の誕生も1998年です。更に中国に至っては金融の自由化が完全にはなされておられませんので、それだけに今後が期待できる分野ではないかと考えております。そのため今春には上海に事務所を設立し、今後に備えております。

藤波 ここで改めて外国為替証拠金取引のシステムについてご説明頂きたいのですが。

潘 外国為替市場は世界最大の金融市場と言われており、1日の平均出来高は1.5兆ドルにも及んでおります。また市場は24時間眠ることもなくシドニー、東京、ロンドン、ニューヨークと駆け巡りますが、外国為替証拠金取引はこの市場を舞台に低コストで金利の高い効率的な資産運用を行っていることとするものです。取引には相応の金融知識と相場観、そしてリスクへのマネジメントが必要となるわけですが、当社ではお客様に対し取引の心掛けはもちろん、様々な情報を的確に提供することを第一に考えながら業務展開しております。

藤波 資産運用に興味があっても、二の足を踏む方は多いと思うのですが。

潘 確かにそういう傾向はありますね。資産運用イコール損失との関連したイメージをお持ちの方も多いのですが、それを払拭するためにも当社では資産運用に透明性を持たせております。またせっかく投資して下さったお客様がいきなり損失した

というのでは納得できないでしょうから、まずは実際の取引システムと同じデモ取引を体験して投資に関する知識やテクニックを完全にマスターした上で、実際の取引に臨んで頂くようにしております。加えて今年5月に業界団体である「外国通貨取引業協会」に加盟し、業界全体の健全化にも取り組んでおります。

藤波 透明性が高く分かりやすい知識を提供するには、社員の皆様も相応の情報を有していなければなりません。

潘 社員に対する社内外での研修にも力を入れているのはもちろんです。当社では毎週月曜日に社内研修を行い外国為替に関する理解の向上はもちろん、当社の勤務方針や金融商品販売法及び外国為替取引におけるリスクなどの勉強会を行っております。また優秀でやる気のある社員は積極的に金融や経営の社外セミナーに参加しており、そのサポートも行っております。お客様には毎日マーケット分析をメールでお届けすると共に月1回程度公開セミナーを開催し、お陰様で好評を頂いております。

完璧なサービスで信用を獲得

藤波 24時間市場を追いかけっていくわけですから社員の皆さんも大変でしょうね。

潘 おっしゃる通りで、深夜でもいつでも対応できるようにと当社ではシフト制の24時間態勢を敷いておりますが、皆よく頑張ってくれます。お客様と当社との交流の場としてインターネット上に「為替広場」を運営しているのですが、そこに書き込まれる様々な資産運用の質問や疑問に対しても社員が即座に答えることができるようになっております。またこのサイトは第三者でも知識があれば回答できるシステムになっており、「これからのドルと円がどのような

動きをするか」など活発な意見交換がネット上で行われますのでとても参考になりますよ。そして初心者の方がこのサイトをご覧になって「やってみよう」と資産運用への第一歩を踏み出して下されば嬉しいですね。

藤波 会社が24時間態勢ですから、社長は気が休まる暇などないのでは。

潘 細かな対応に関しては社員に任せておりますので、私は遅くとも夜の10時には退社するようにしております。しかし日本がたとえ真夜中であっても市場は常に動いているわけですから、何かあればすぐに指示が出せるよう常に心の準備をしておかなければなりません。本当は旅行が好きで世界中の観光地へ出掛けてみたいのですが、今の状況を考えますととても無理ですね。

藤波 社長の頭の中には次なる戦略や夢が詰まっていることと思いますが、最後にそれらについてお聞かせ下さい。

潘 日本では他社との熾烈な競争の中で、より良い取引環境とサービスの提供を通していかに投資家の皆さんからの信頼を勝ち取るかに苦心しております。そして将来は為替以外の金融商品も提供していければと思っています。また中国に関しては3年から5年で金融の自由化が加速すると共に大きな市場が期待されると予測しておりますので、その波に乗りつつ日中にメリットをもたらすことのできる会社として成長していきたいですね。そして横浜や神戸にチャイナタウンがあるように中国にも日本人が集まる区域をつくって、リゾート目的の人々が短期でも長期でも滞在できる街として整えることができればという膨大な夢を描いているところです。

藤波 面白いアイデアですね。今後も日中の架け橋として大いに活躍下さると共に、日本人村という夢の実現も期待しています。



東京の社員の皆さん



藤波辰爾氏と共に



上海の社員の皆さん